

§4-3.

第4章のまとめ

- * 肌の色は性別の印象を変化させる作用を持つ。具体的には、色黒の場合は男性的、色白の場合は女性的な印象を持たれやすい。特に顔の観察時間が限られている場合には当該の肌色の影響が強まる。
- * 顔の形態によって肌色の明るさは異なって感知される。男性寄りの顔はより色黒に、女性寄りの顔はより色白に感じられる可能性がある。
- * 性別の印象評定の際、男性は肌色に左右される傾向があり、女性は形態を参照する傾向がある。
- * 明度の高い肌色である場合、観察時間が延長されることによって色白であるとの印象が著しく増す。逆に明度の低い肌色である場合には当該時間の影響は小さく、色黒であるとの印象に変化は生じにくい。
- * 女性寄りの形態において観察時間による影響が出やすく、一瞬の顔観察によって女性的な印象を強く得ることには困難が伴う。一方、男性寄りの顔においては当該時間の影響を受けにくく、男性的な印象に変化は生じにくい。
- * 肌色に対するステレオタイプの観念が強い場合は性別判断が速い。しかし、肌色の明るさや性別の印象に対して、当該観念の強さは影響しにくい。